

平成12年度後期期末試験問題

民法I 民法総則 窪田教官

第一問（50点）

判例は、厳密には民法94条2項の要件を満たさない場合においても、同条を類推適用して第三者の保護を実現するルールを展開した。94条2項が類推適用される場合については、いくつかのタイプがあるとされる。それぞれのタイプについて一つずつ具体的な例を挙げ、その具体例がどのように解決されるのかを説明しなさい。その際、第三者が保護されるためにはどのような要件が必要とされるかについて必ず説明しなさい。

第二問（50点）

父親Aの家業を手伝っているBは、Aの実印を無断で持ち出して委任状を偽造し、Aの代理人として、履行期（登記移転、引渡、代金支払時期）を半年後とする甲の売買契約をCと締結した。Bは、Cより手付金300万円を受領し、すぐに競輪・競馬に費消してしまった。履行期前にBが交通事故で死亡し、Aが単独相続した。Aは、Cより売買契約の履行を求められて、はじめてそのような売買契約が交わされていたことを知った。この場合、AC間にどのような法律関係が生ずるかを検討しなさい。なお、本問においては手附ならびに不法行為に関する問題については言及する必要はない。